

1 - 4 1988年10月10日 釧路沖の地震

The Earthquake off Kushiro, October 10, 1988

札幌管区气象台

Sapporo District Meteorological Observatory, JMA

10月10日14時52分頃、釧路沖（ $144^{\circ}35.0'E$ 、 $42^{\circ}30.0'N$ 、 $H 78 \text{ km}$ 、 $OT = 14^h 52^m 11.1^s$ ）にM6.0の地震*が発生した。

第1図のように道東から道南および東北地方の一部で有感となった。第2図に本震のメカニズム解（北海道大学で得られたデータを含めても、ほぼ同様な結果となった）を示す。

北海道南東沖周辺の地震活動について（範囲：東経 $143.0^{\circ} \sim 146.0^{\circ}$ 、北緯 $4.0^{\circ} \sim 43.2^{\circ}$ ）

第3図(a)・(b)に1926年以降、この地域で発生したM6.0以上の地震の震央分布および時空間分布を示す。また、第3図(c)・(d)に今年1月から10月までの震央分布およびM-T図と地震回数累積曲線を示す。

今回の地震で、今年に入ってから、この地域でM6.0以上の地震は3回発生したことになる（他の2回は5月7日：M 6.4、7月7日：M 6.0）。

7月7日の地震は多くの余震が観測されたが、今回は5月7日と同様にほとんど余震は観測されなかった。

この地域の過去の主な被害地震を第4図および第1表にまとめる。

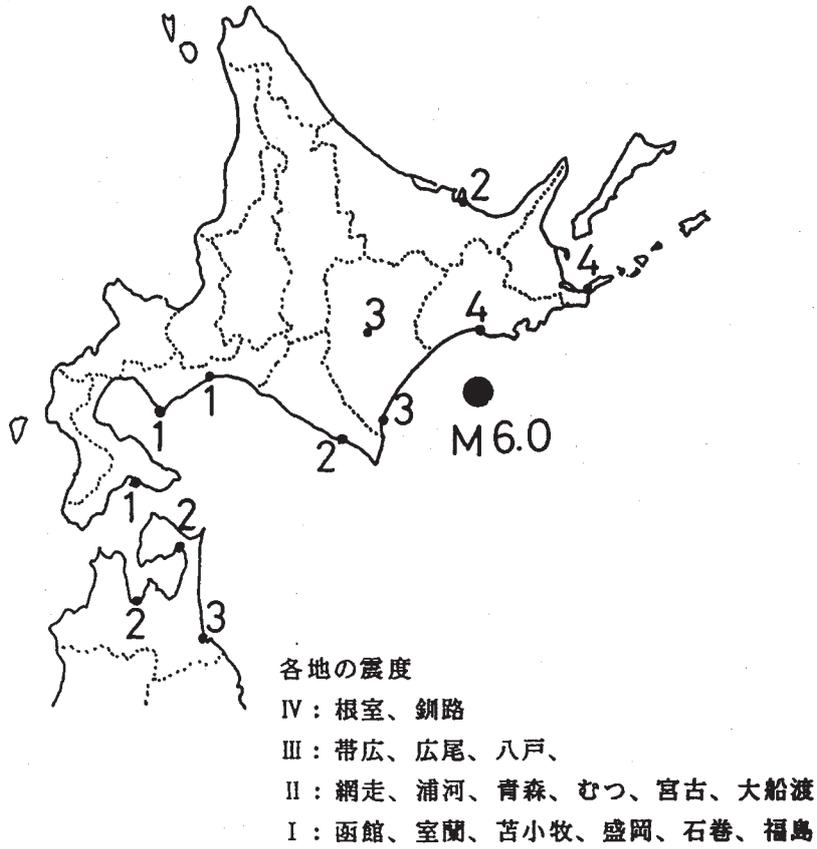
注1：*付記は、震源要素が暫定である。

注2：第2図のメカニズム解は、本庁地震予知情報課で求めたものを使用。

第1表 過去の主な被害地震のリスト (1926年～)

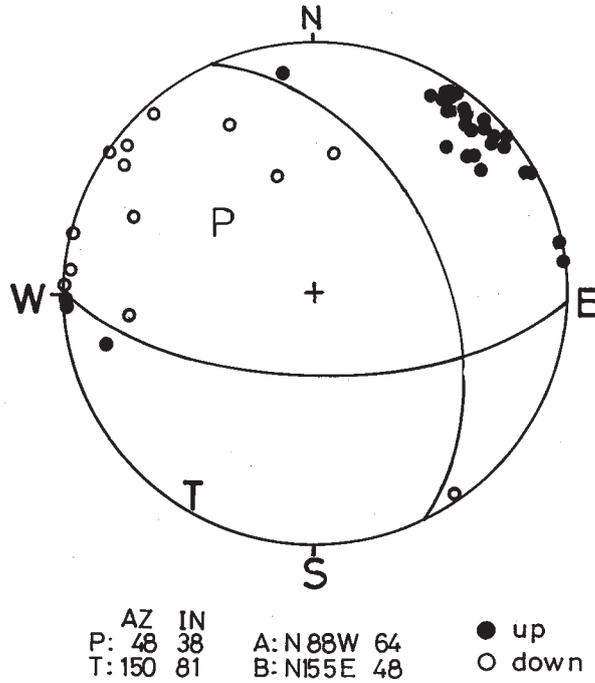
Table 1 List of disastrous earthquakes.

- (1) 1952 (昭27)年3月4日 10時23分 釧路沖 「1952年十勝沖地震」
 N 41° 48' E 144° 08' H 0 km M 8.2
 津波被害大 (死者28, 行方不明5, 傷者287)
 最大震度5 ; 釧路, 帯広, 浦河 (釧路, 十勝, 胆振支庁管内の一部で震度6)
- (2) 1952 (昭27)年3月10日 02時04分 十勝沖 (上記地震の余震)
 N 41° 42' E 143° 43' H 20 km M 6.8
 小被害, 小津波あり 最大震度4 ; 帯広, 浦河
- (3) 1962 (昭37)年4月23日 14時58分 十勝沖
 N 42° 14' E 143° 55' H 60 km M 7.0
 被害 負傷2ほか, 小津波あり 最大震度5 ; 広尾, 帯広
- (4) 1971 (昭46)年8月2日 16時25分 十勝沖
 N 41° 14' E 143° 42' H 60 km M 7.0
 被害 負傷1ほか, 小津波あり 最大震度5 ; 浦河



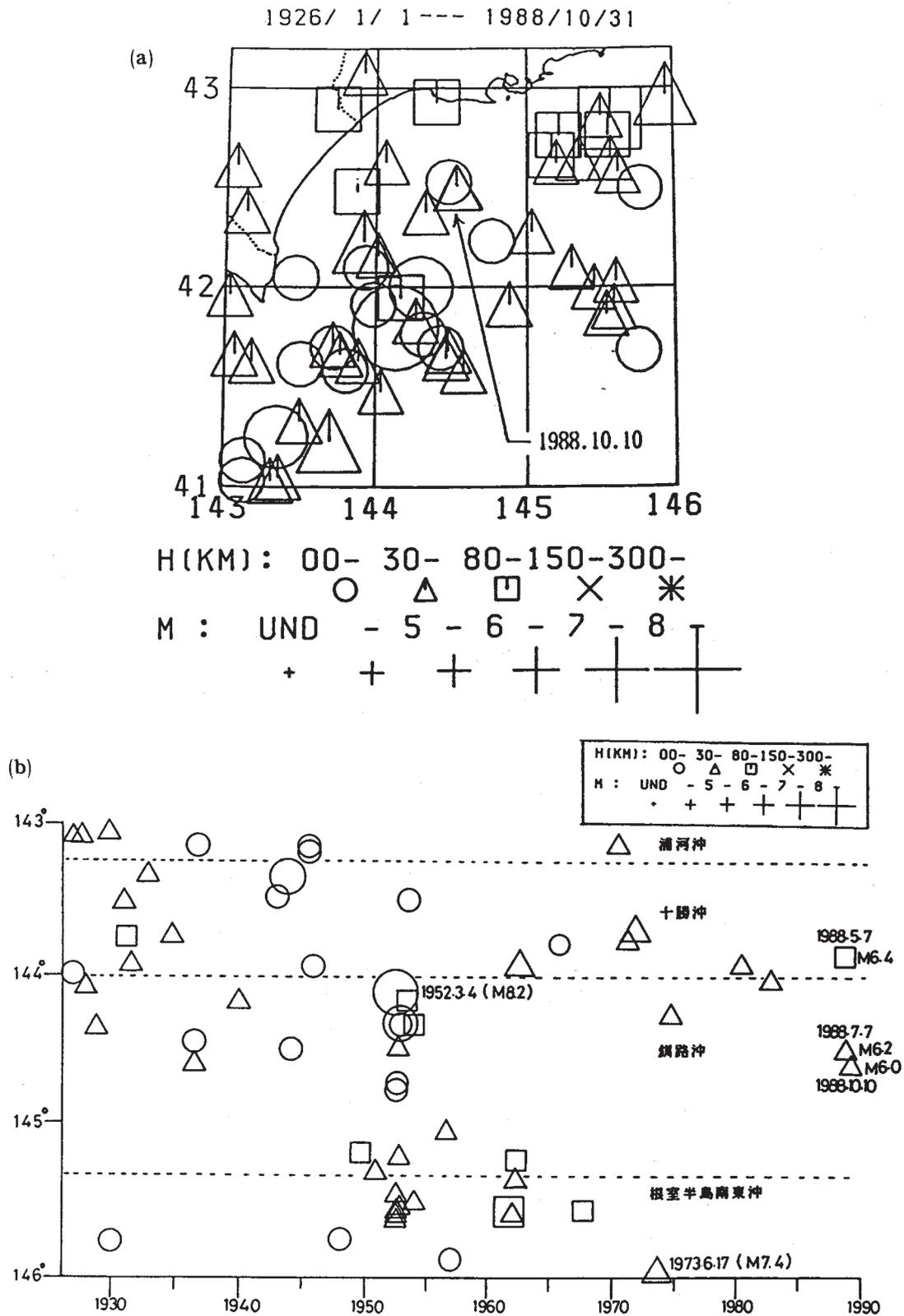
第1図 震度分布

Fig. 1 Distribution of seismic intensities.



第2図 本震のメカニズム解 (上半球投影)

Fig. 2 Focal mechanism solution (projected on upper hemisphere).



第3図 北海道の南東沖周辺の地震活動

範囲：東経 143.0° ~ 146.0° 北緯 41.0° ~ 43.2°

(a) $M \geq 6.0$ の地震の震央分布 (1926 年以降)

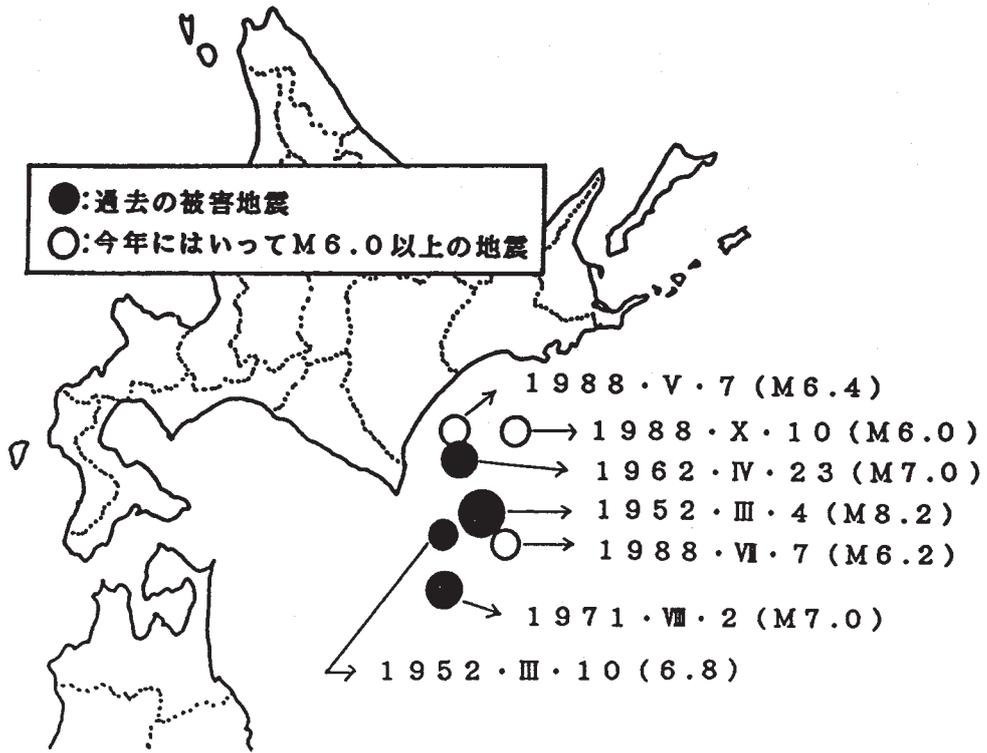
(b) (a) の時空間分布

Fig. 3 Seismic activity around the off southeast of Hokkaido.

Area: longitude E143.0° - 146.0°, latitude N41.0° - 43.2°.

(a) Epicenter distribution of earthquakes with $M \geq 6.0$ since 1926.

(b) Space-time plot of (a).



第4図 過去の主な被害地震の震央分布（1926年以降）

Fig. 4 Epicenter distribution of disastrous earthquakes since 1926.